

校番	24	学校名	広島県立賀茂高等学校	校長氏名	大石 秀邦	☑・定・通	☑・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

1 ミッション (地域社会における自校の使命)

賀茂台地の伝統校・進学校として、その歴史と校是「信 敬 愛」を誇りとし、文武両道に励み、随所にリーダーとして、郷土をはじめとする社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。

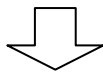
2 ビジョン (使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

- (1) 賀茂高校では、高い目標に挑み、優れた学習行動のできる生徒が育っている。
- (2) 賀茂高校では、社会の持続可能な発展に貢献する使命感と能力を持った生徒が育っている。
- (3) 賀茂高校では、授業、部活動、学校行事をとおして、他者と協働して新しい価値を創造できる生徒が育っている。
- (4) 賀茂高校では、積極的に情報発信をし、保護者・地域社会からの信頼と期待に応えている。
- (5) 賀茂高校では、職員の職能成長が図られ、活気と結束力のある学校組織が維持されている。

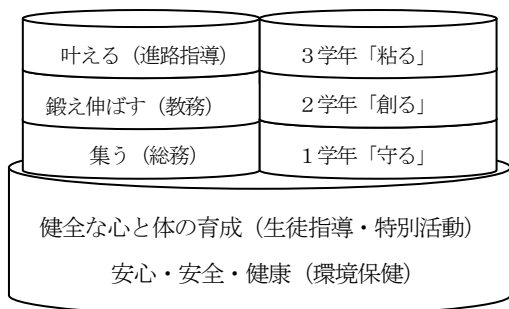
3 環境分析

(1) SWOT分析

内部環境		【強み(S)】	【弱み(W)】
		<ul style="list-style-type: none"> ・活用コアスクールとしてのノウハウ ・献身的な個人指導体制(態勢) ・教職員間のスムーズな情報共有 ・誇るべき歴史と伝統 ・素直さと優しさを備えた生徒の存在 ・安全かつ落ち着いた学習環境 ・同窓会及びPTA等の温かい支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力等を高める研修体制が脆弱 ・全日制進学校として繁忙感の蔓延 ・各分掌間の未整理部分の業務が残存 ・主体性や牽引力のある生徒が不足 ・論理的思考力や学びに向かう力に不安 ・ICT機器の未整備 ・業務改善への対応及び認識の遅れ
外部環境	【機会(O)支援】	<ul style="list-style-type: none"> ◆より強く伸ばし、アピールしていく ・卒業生や地域の人材ネットワークの拡充 ・高いレベルの文武一体と心の教育 ・日本遺産をめざす地域・行政との協働体制 ・海外研修を核とする特色ある探究活動 ・国際的視野の拡大や留学希望者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援的要因などによって弱みを克服 ・様々な交流機会に生徒を巻き込む ・生徒が主体となる行事・特別活動の充実 ・外部人材の積極的活用 ・ICT機器の活用 ・校務整理及び精選による業務の効率化
	【脅威(T)阻害】	<ul style="list-style-type: none"> ◆内部環境の強みをもとに脅威を克服 ・地元中学校との連携強化 ・積極的な広報活動による自校のアピール ・国公立大学等、進学実績のさらなる向上 ・積極的な社会貢献やボランティア ・総合的な探究の時間等を通じた積極的提言 	<ul style="list-style-type: none"> ◆思い切った見直し ・教え込む指導から自己管理能力の醸成へ ・資質及び能力の育成に向けた対話と協働 ・効果的な家庭学習課題の精選と評価 ・言語活動の充実による読解力、論述力育成



平成 31 (令和元) 年度 重点項目
<ol style="list-style-type: none"> 1 「負荷・活用・省察」を取り入れた深い学びに向かう授業 2 生徒の充実感につながり、地域への説得力となる進学実績 3 グローバル社会への対応力をめざした異文化交流の促進 4 部活動及び学校行事の充実に向けた生徒の主体的活動の支援 5 情報発信と保護者・地域との連携による本校への信頼の確保 6 業務改善とワーク・ライフ・バランスの推進



(2) 数量的現状分析

ア 高校入試の状況等

入学者選抜の倍率の推移

入試年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
選抜(Ⅰ)	2.38倍	1.71倍	1.69倍	1.75倍	1.88倍	1.86倍
選抜(Ⅱ)	1.34倍	1.18倍	1.30倍	1.21倍	1.20倍	1.08倍

イ 卒業生の進路状況等

	大学3年 (H26入学)	大学2年 (H27入学)	大学1年 (H28入学)	現3年生 (H29入学)	現2年生 (H30入学)
①1年7月回 3教科平均偏差値 54 以上	85人	54人	51人	48人	43人
②国公立大学 合格者数	86人	71人	79人		
伸び率 (②÷①) %	101.2%	131.5%	154.9%		

ウ 学力向上に関する資料

全国模擬試験 英数国3教科総合の平均偏差値の推移 (進研模試)

	1年			2年				3年		
	7月	11月	1月	7月	11月	1月	2月 マーク	6月 マーク	9月 マーク	11月 マーク
H30 入学生	48.3	48.3	49.9							
H29 入学生	49.2	50.9	52.2	50.9	49.8	51.2	51.8			
H28 入学生	49.6	50.2	51.1	50.4	50.8	50.5	51.5	49.1	47.5	46.8
H27 入学生	49.6	49.3	49.9	50.1	49.6	48.3	49.0	46.0	44.6	45.2
H26 入学生	52.3	51.0	51.9	52.1	49.3	48.9	49.5	46.7	45.9	47.2

エ 部活動への加入率

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
加入率 (%)	86.3	81.0	83.7	82.0	76.0
体育系 (人数)	475	439	441	412	366
文化系 (人数)	206	170	159	171	163

オ 部活動の主な成績

(ア) 体育系 県総合体育大会、中国大会は春季、秋季を含む。

年度	全国大会	中国大会	県総合体育大会
平成30年度		アーチェリー 男子団体準優勝 男子個人 5位 女子個人 水泳 男子100m背泳ぎ 男子200m背泳ぎ 女子50m自由形 7位 女子100m自由形 9位 ハンドボール女子 レスリング 登山	アーチェリー 男子団体 3位 個人 4位・6位 ソフトテニス女子 団体ベスト 8 ソフトテニス男子 ハンドボール女子 3位 ハンドボール男子 バスケットボール女子 水泳 男子100m自由形 男子100m背泳ぎ 6位 男子200m自由形 男子200m背泳ぎ 6位 男子200mメドレー 男子400mメドレー 女子50m自由形 3位 女子100m自由形 5位 バレーボール男子 卓球

			ソフトボール女子 剣道 弓道 遠的男子団体 8位 柔道 73kg級 60kg級 陸上競技 レスリング 60kg級 2位
平成29年度	水泳 男子50m自由形	アーチェリー 男子団体 5位 バレーボール男子 ソフトテニス女子 個人 バドミントン女子 弓道 女子団体 女子個人 男子団体 水泳 男子50m自由形 3位 男子100m自由形 6位 男子100m・200m背泳ぎ 男子4×100m自由形リレー 女子50m・100m自由形 女子200m背泳ぎ	アーチェリー 男子団体 5位 女子団体 4位 バドミントン女子 3位 弓道 女子団体 6位 女子個人 8位 水泳 男子50m 自由形 1位 男子100m 自由形 1位 女子50m 自由形 5位 女子100m 自由形 3位 男子4×100m自由形リレー 5位 女子200m背泳ぎ 7位
平成28年度	陸上競技 男子800m 弓道(選抜大会) 女子個人	陸上競技 男子800m 2位 アーチェリー 男子団体 2位 弓道(秋季) 女子団体 女子個人 3位 弓道(春季) 男子個人 水泳 男子50m自由形 男子100m自由形 男子200m自由形 男子400m個人メドレー 女子100m・200m背泳ぎ 女子50m自由形	バドミントン女子 3位 バスケットボール男子 ベスト 8 柔道 男子個人 5位 水泳 男子50m 自由形 3位 男子100m 自由形 2位 女子200m 自由形 8位 弓道 男子団体 8位 陸上競技 男子1500m 1位 800m 5位

(イ) 文化系

年度	全国大会 (総合文化祭等)	主要成績
平成30年度		吹奏楽 広島県吹奏楽コンクール高等学校A部門 銀賞 広島県アンサンブルコンテスト高等学校の部 クラリネット6重奏 銀賞 広島県アンサンブルコンテスト高等学校の部 サクソフォン4重奏 銅賞 軽音楽 広島県高等学校総合文化祭 平成30年度高校対抗バンド合戦 写真 広島県高等学校写真展 佳作 科学 マンチャレンジプログラム認定研究 広島県科学賞 準特選
平成29年度		吹奏楽 広島県吹奏楽コンクール高等学校小編成部門 金賞 第58回全日本吹奏楽コンクール中国大会 銅賞 写真 第41回 全国高等学校総合文化祭写真部門 出場 美術 第41回 広島県高等学校総合文化祭 ポスターデザイン入選 全日本学生児童発明くふう展 奨励賞
平成28年度		吹奏楽 全日本吹奏楽コンクール中国大会 高等学校小編成部門 銅賞 写真 広島県高等学校総合文化祭 個人の部三席 広島県児童生徒発明くふう展 広島県教育委員会賞

カ 特別指導の件数, 遅刻者数, 退学者数, 休学者数, 転学者数, 長期欠席者数 (30日以上欠席) の推移

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
特別指導件数	14	14	9	19	12
遅刻者数	770	657	455	598	899
退学者数	0	2	1	3	2
休学者数	0	2	4	4	1
転学者数	2	2	5	9	5
長期欠席者数	7	16	15	13	15

キ 年間保健室来室数

生徒1人当りの年間平均来室回数

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
(回)	1.00	1.64	1.49	1.56	1.40

ク 英語検定取得状況

	H26入学生 卒業時	H27入学生 卒業時	H28入学生 卒業時	H29入学生 2年終了時	H30入学生 1年終了時
準1級	1人	2人	1人	1人	1人
2級	25人	46人	39人	33人	5人
準2級	135人	102人	134人	139人	23人
合計	161人	150人	174人	173人	29人

※平成30年度より希望者受検としており, 受検者数が大きく異なる。

4 目標の設定

学校経営目標					
達成目標	評価指標	目標値	実績値	目標値	担当部等
		平成 30年度	平成 30年度	平成 31年度	
1 学ぶ：生涯にわたり学び成長する「優れた学習者」を育てる。					
「活用と協働」を取り入れた学びが機能している。	「活用・アウトプットを取り入れた授業」により、課題や疑問を見つけ、積極的に質問するなどして前向きに授業に取り組んでいる。 (%, 生徒アンケート)	90	91.0	90	教務
	授業での協働の場面（ペアワーク等）によって、学習内容の理解が深まっている。 (%, 生徒アンケート)	90	92.2	90	
グローバル社会を見据えたキャリア教育を展開している。	GAP(グローバル・アクション・プログラム)により、多様な視点から社会を分析することで、課題の解決に向けた提案ができる。 (%, 生徒アンケート)	90	89	90	2学年会
	国際交流の機会を、異文化に目を向ける契機とし、グローバルな視点から自分の考えを発信できる。 (%, 生徒アンケート)	90	91.0	90	1学年会
2 挑む：高い目標を持ち、それに向けて自律した行動が取れる生徒を育てる。					
国公立大学及び地元の中核大学である広島大学への合格者数を増やす。	卒業生数に対する国公立大学合格者数の割合 (%)	—	34	40	3学年会 進路指導
	広島大学合格者 (人)	20	10	20	進路指導
学力向上と部活動との両立ができている。	模試平均偏差値が1学年では52を、2学年では50を超えている。 (国数英平均の数値)	1学年 52 2学年 50	1学年 48.3 2学年 51.2	1学年 52 2学年 52	進路指導
	センター試験において、受験者の40%が全国平均点を超えている科目 (数)	7	10	10	進路指導
	1, 2年生は平均150分以上、3年生は平均210分以上、授業以外の自主的な学習ができている。 (平均値(分), 生徒アンケート)	1学年 150 2学年 160 3学年 210	1学年 170 2学年 151 3学年 231	1学年 150 2学年 150 3学年 210	進路指導

		部活動で学んだことが、自分の学習活動に良い影響を与えている。 (%, 生徒アンケート)	85	86.7	90	特別活動
		GTEC for Students のトータルスコア平均 (数値)	1 学年 415/660 2 学年 450/810	1 学年 425/660 2 学年 458/810	1 学年 600/1080 2 学年 700/1280	外国語科
3 貢献する：規範意識が高く、他者を思いやり社会に貢献する生徒を育てる。						
		1人1役制で自分が人のために役に立とうと考えながら様々な活動や行事に参加できた。(%, 生徒アンケート)	85	82.7	85	特別活動
	1人1リーダー制が機能し、他者を認め、貢献することができる。	挨拶をする習慣が身に付いている。(%, 生徒アンケート)	95	95.0	100	生徒指導
		美化委員による清掃点検(年5回以上)の評価において、よく清掃ができています。(平均%)	95	90.3	90	環境保健
4 広報活動を充実する：保護者・地域の信頼と期待を高め、誇りが持てる学校にする。						
	保護者や地域社会に対して、積極的に情報を発信する。	ホームページのアクセス数(回数/1ヶ月当たり)	3,000	4,540	4,000	総務
		ホームページの更新回数(回)	130	178	170	
	中学生へ効果的なアピールを行う。	オープンスクールへの参加者(人)	600	559	600	総務
		賀茂高だよりの定期発刊(増刊号を含む)(回)	7	7	8	
5 教育環境を充実する：生徒が安心できる校内環境の整備と働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。						
	教育相談体制の充実を図る。	本校には教育相談の窓口が設置され、相談体制が充実していると思う。 (%, 学校評価アンケート)	75	62	80	環境保健 生徒指導
	職員の働き方改革を推進する。	業務改善の取組を学校全体で取り組んでいる。 (%, 職員アンケート)	65	63	70	各部主任 管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 学ぶ：生涯にわたり学び成長する「優れた学習者」を育てる。			
「活用と協働」を取り入れた学びが機能している。	○各単元で必ず「活用（アウトプット）」の時間を取り入れるとともに、1・2学年の全科目で「パフォーマンス課題」を用いた学習指導を複数回実施する。 ○アウトプットを志向した授業に関する研修会を複数回行う。	○「活用（アウトプット）」の授業及び評価のスタイルが確立している。 ○アウトプット志向型の授業を公開する。	教務
	○協働学習を通して課題発見・問題解決に積極的に関わる。	○自分の周りの様々な事象を自らの課題と捉え、他者と協働しつつ、クリティカルな思考に基づいて問題解決に向かう。	
グローバル社会を見据えたキャリア教育を展開している。	○東広島フィールドワーク、研修旅行における班別研修等を通じて、地元地域と世界との繋がりを認識し、課題を見つけ、その解決を考えさせる。	○多様な視点からの分析力や深い考察力が身に付くようGAPを進化（深化）させていく。	2学年会
	○1学年「総合的な探究の時間」に、国際交流の時間を効果的に複数回設定する。 ○姉妹校との国際交流を進める（姉妹校訪問・修学旅行団受入れ・年賀状交流等）。 ○実際に姉妹校交流に参加した生徒に報告の場を設定する。	○異文化交流の機会を積極的に取り入れたグローバル感覚を触発するGAPの教育内容を創造する。 ○国際協力に興味を持ち、積極的に国際交流を図ろうとする生徒を育成する。	1学年会
2 挑む：高い目標を持ち、それに向けて自律した行動が取れる生徒を育てる。			
国公立大学及び地元の中核大学である広島大学への合格者数を増やす。	○学年会として進路指導のフロントラインを揃え、団体戦の構えを築く。 ○個人面談等を通じて学びの目的や生徒個々の適性や興味に応じた情報提供を効果的に行う。	○「学びの目的」や「何を学ぶか」といった視点で受験校や進路先が決定されている。 ○安易に妥協せず、最後まで挑戦する（受けきる）力を身に付けている。	3学年会 進路指導
	○教員が大学入試問題研究に取り組み、広島大学に合格できるレベルと対策を把握し、授業に反映させる。 ○模試等の効果的な利用を徹底するとともに、広島大学を意識した補習を展開する。 ○模試結果から、志望生徒の課題を明らかにし、個別の学習指導を計画・実施する。	○3年間の授業及び補習を中心とした取組で、広島大学に合格できる力を育成する指導システムを構築する。 ○オープンキャンパスへの積極的参加を促すとともに、講師を招聘して学部学科ガイダンスを実施する。	進路指導
学力向上と部活動との両立ができています。	○自ら設定した目標を実現するため、逆算して現在の行動を決定していくことができるよう指導していく。 ○学年会の協力のもと、SHRを利用して教科小テストを実施するとともに論理的な文章の読解力を育成する。 ○毎日復習をすることによって得られる学習効果について、学年集会や通信、個人面談を通して生徒一人一人に周知する。 ○学習活動の履歴や成果を適切にまとめる（e-Portfolio）の習慣を確立する。	○年間計画の中で、将来設計を考えさせる内容の進路LHRを計画的に設定する。 ○Classi等を活用し、学習時間管理に係る効果的なアドバイスをを行い、計画的な学習と復習の質を上げる。 ○復習重視の学習スタイルを生徒一人ひとりが身に付け、自律的な学習ができるようにさせる。	各学年会 進路指導
	○部活動指導の一環として、部員への学習の自覚を促す指導を行い、文武一体を目指していくという実感を持たせる。	○部活動指導の一環として学習指導・課題指導が位置付いている。	特別活動
	○GTEC 全員受験に対応するために、タイムリーな時期に、授業及び課題によって、適切な指導を行う。	○適切な使用教材の選定や指導法、大学生による指導等、英検等への対策のあり方をシステム化する。	英語科

3 貢献する：規範意識が高く、他者を思いやり社会に貢献する生徒を育てる。			
1人1リーダー制が機能し、他者を認め、貢献することができる。	○委員会活動や生徒会行事などを通じて、生徒個々に自主性を発揮させながら集団へ貢献しようとする気持ちを育てる。	○生徒一人ひとりがどのように自分の役割を果たし達成感を抱いてきたのかを全体で共有し自己肯定感の促進を図る。	特別活動
	○全校集会や学年集会など、機会あるごとに社会における挨拶の大切さについて講話をする。 ○教職員から率先して、挨拶をする。	○生徒指導・特別活動だけでなく、他の分掌からのアプローチを行い、挨拶の定着を図る。	生徒指導
	○美化委員会を中心に学校環境の向上に対する意識を高め、美化活動や校内清掃を活性化する。	○一人一人が校内美化の意識を持ち、学校をきれいにすることで、学習しやすい環境の維持に努める。	環境保健
4 広報活動を充実する：保護者・地域の信頼と期待を高め、誇りが持てる学校にする。			
保護者や地域社会に対して、積極的に情報を発信する。	○ホームページに学校の活動内容を具体的に盛り込む（生徒会活動、学校行事、部活動実績、地域ボランティア等）。 ○閲覧しやすいページづくりに努める（トップページやショートカットの精選等）。	○保護者、地域、地元中学校に開かれた学校として、学校公開行事や広報活動の充実を図る。 ○簡潔明瞭で、分かりやすく具体的な内容のホームページ作成をする。	総務
中学生へ効果的なアピールを行う。	○オープンスクールに、生徒を積極的に登場させ、中学生へのアピールとする。 ○「賀茂高だより」を定期的に発刊する。	○本校の特色を継続して情報発信し、地元中学校からの志願者数の増加をめざす。 ○「賀茂高だより」をはじめとする情報発信に努める。	総務
5 教育環境を充実する：生徒が安心できる校内環境の整備と働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。			
教育相談体制の充実を図る。	○校内の教育相談体制について生徒・保護者へ周知するとともに、スクールカウンセラーの有効活用を図る。 ○特に配慮を要する生徒の情報を共有する。	○教育相談、特別支援に関する職員研修を充実させ、継続的に開催する。	環境保健 生徒指導
職員の働き方改革を推進する。	○定時退校日における職員の定時退校を徹底する。	○各分掌等で業務の見直しを積極的かつ継続的に行い、スクラップアンドビルドを推進する。	各部主任 管理職